

## 【森町】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、共同的な学びの実現～（令和3年1月）』では、ツールとしてのICTを基盤としつつ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められている。

森町教育大綱では、「明日の森町を築く 心豊かな人づくり」を教育の基本理念として示している。また、教育目標の一つ『「ひと」と「ひと」が育みあうまちをつくる』の施策として「情報教育の推進」を掲げている。「こころざし」をもち、たくましく生きる子の育成を目指している。「主体的・協働的な学び」に向けて1人1台端末等ICT機器の効果的な活用を通して実現させていく。

#### 2. GIGA第1期の総括

令和2年度に1人1台端末整備及び各学校のネットワーク環境整備を行い、令和3年度から本格的な稼働が始まった。また、協働的な学びの充実を図るために学習支援ソフトウェアや児童生徒の理解度に合わせた学習ができるようAIドリルを導入し、各学校で活用できるよう整備してきた。また、ICT支援員を配置し、教職員を対象とした授業の支援や児童生徒の端末操作のサポートを行うことで、教職員のスキルアップを図った。令和2年度には、貸出用WiFi機器の整備を行い、持ち帰り学習時への対策を講じた。

しかし、一方で授業における授業支援ソフトや学習支援ソフトを活用した授業づくりにおいては、学校間、教職員間で差が生じている課題があり、活用サポート体制や研修機会の充実によるICT活用の底上げが課題となっている。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

端末を適切に整備・更新し、1人1台端末環境を引き続き維持することを前提とした上で、以下のように1人1台端末の利活用を進めていく。

##### （1）1人1台端末の積極的活用

授業や家庭学習、学校・家庭間の連絡等、様々な場面での1人1台端末活用を進める。授業支援ツール・協働学習支援ツール、デジタル教科書等を積極的に活用し、児童生徒の思考を止めず、一人ひとりが考えやアイデアを表現できる力の醸成と、児童生徒が主体的に学び合い、クラス全体で練り上げる体制を実現していく。

そのため、児童生徒による端末の活用を支える教員へのICT活用のサポートについて、研修会への参加支援やICT支援員の活用等により、引き続き利活用のハードルを下げ、町内の学校によってICT活用に差が生じることのないよう、必要な取り組みを講じていくものとする。

## （２）個別最適・協働的な学びの充実

学習者用デジタル教科書や AI ドリル等を活用し、児童生徒一人一人にあった方法で学習を進めていく。また、学校教育活動全体を通して、児童生徒自身および教職員や他の児童生徒と主体的・協働的に端末を活用した学びを実施することができるように支援していく。児童生徒が「自分で調べる」「自分で考えをまとめ、発表・表現する」「教職員や児童生徒同士とやりとりする」という場面に応じた取り組みを実施する。

## （３）学びの保障

GIGA スクール第２期では、日常の授業で端末をより効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、音声機能や学習アプリ等を活用し、学びを止めない学習環境を整備していく。また、１人１台端末を活用した心の健康観察やアンケートなどを実施し、児童生徒の状況把握をしたり、教育相談を行ったりしている。それにより、児童生徒の気持ちに寄り添いながら学びの保障につながる取り組みを実施していく。